

三八で働く魅力共有

38プロジェクト 高校生ら調査報告

八戸

女性の目線から地域の産業や生活の魅力を調査・発信する事業「38リアルスタイルプロジェクト」

「三八プロジェクト」に取り組んでいる県三八地域民局はこのほど、八戸市の八戸ポータルミュージアムはつちで「魅力共有会」を開いた。活動に参加した高校生、大学生

たちが調査成果を発表し、地元で働くことの良さを考えた。

プロジェクトは昨年7月にスタート。八戸高校の生徒と八戸学院大学の学生合わせて約30人が6グループに分かれて三八地域の業界団体と企業を回り、仕事内容や働きがいなどを取材してきた。

魅力共有会では各グループが「八戸地域は物流の面で世界的に重要な地域だと分かった」「地元の企業は業種が違っても地域を元気にしようという思いは一緒で、互いに尊重し合い協力し合っていた」「都会より暮らしやすく、働きやすい環境がある」などと調査を通じて見えてきたことを語った。地元の企業関係者らによるトークセッションも行われた。

各グループの活動内容は、同プロジェクトを運営する「ビーエフエム（八戸市）のラジオ番組やホームページで公開する。

同県民局の堀義明局長は「生まれ育った地域で働き、暮らしていきたいと希望する人が増えていけばいい」と話していた。

（近藤弘樹）